

## 令和元年度国内希少野生動物種新規指定候補種の概要

## ＜哺乳類＞

種名 (学名)	選定要件*	種の概要	
<p>1. オリイコキクガシラコウモリ (<i>Rhinolophus cornutus orii</i>)</p> <p>分類：キクガシラコウモリ科</p> <p>環境省RLランク： 絶滅危惧IB類 (EN)</p> <p>固有亜種</p>	ウ	①種の特徴	種コキクガシラコウモリは前腕長36～44mm、頭胴長35～50mm、尾長16～26mm。本亜種は、他地域のコキクガシラコウモリよりもやや小型である。常緑広葉樹の自然林に生息する。昼間のねぐらは洞窟であり、夜間に採餌のために洞外に出かける。
		②分布域	鹿児島県に分布する。
		③存続を脅かす要因	圃場整備等各種開発に伴う生息地の減少、洞内の乾燥化。餌昆虫が年中発生する森林の減少。
		④その他	鳥獣保護管理法により、捕獲には許可が必要である。生息地の一部は以下に含まれる。 ・国立公園 ・県指定鳥獣保護区
<p>2. オキナワコキクガシラコウモリ (<i>Rhinolophus pumilus pumilus</i>)</p> <p>分類：キクガシラコウモリ科</p> <p>環境省RLランク： 絶滅危惧IB類 (EN)</p> <p>固有亜種</p>	ウ	①種の特徴	小型のキクガシラコウモリの仲間で、前腕長 38～42mm、頭胴長 38～46mm、尾長 18～24mm。体毛は褐色系である。常緑広葉樹の自然林に生息する。昼間のねぐらは洞窟であり、夜間に採餌のために洞外に出かける。
		②分布域	沖縄県に分布する。
		③存続を脅かす要因	圃場整備等各種開発に伴う生息地の減少、洞内の乾燥化。餌昆虫が年中発生する森林の減少。
		④その他	鳥獣保護管理法により、捕獲には許可が必要である。生息地の一部は以下に含まれる。 ・国立公園、国定公園、都道府県立自然公園 ・県指定自然環境保全地域 ・国指定鳥獣保護区、県指定鳥獣保護区、県指定休猟区  工事に伴い暫定生息洞や人工洞窟の建設がされた事例がある。

種名 (学名)	選定要件*	種の概要	
3. リュウキュウユビナガコウモリ ( <i>Miniopterus fuscus</i> )  分類：ヒナコウモリ科  環境省RLランク： 絶滅危惧IB類 (EN)  固有種	ウ	①種の特徴	やや小型のユビナガコウモリ類で、前腕長 43～46.5mm、頭胴長 50～60mm、尾長 45～55mm、体重 8～11 g。焦げ茶色の体毛を持つ。 常緑広葉樹の自然林に生息する。昼間のねぐらは洞窟であり、夜間に採餌のために洞外に出かける。
		②分布域	鹿児島県、沖縄県に分布する。
		③存続を脅かす要因	圃場整備等各種開発に伴う生息地の減少、洞内の環境変化。餌昆虫が年中発生する森林の減少。
		④その他	鳥獣保護管理法により、捕獲には許可が必要である。 生息地の一部は以下に含まれる。 ・国立公園、国定公園、都道府県立自然公園 ・国指定鳥獣保護区、県指定鳥獣保護区、県指定休猟区  工事に伴い暫定生息洞や人工洞窟の建設がされた事例がある。

<鳥類>

種名 (学名)	選定要件*	種の概要	
<p>4. クロツラヘラサギ (<i>Platalea minor</i>)</p> <p>分類：トキ科</p> <p>環境省RLランク： 絶滅危惧IB類 (EN)</p>	ウ	①種の特徴	<p>全長は70～80cm。雌雄同色。全身白色で、成鳥では嘴と目先、脚は黒色。嘴はへら状で幼鳥では黄色を帯びるが成長するにつれて黒くなり、横縞状に隆起する。繁殖期の成鳥は冠羽がのび、胸とともに黄色を帯びる。目先の皮膚も黄色くなる。</p> <p>水辺に生息し、干潟、河口、池、潮遊池、用水路など浅水域で魚類や甲殻類を採餌する。</p>
		②分布域	<p>九州と沖縄が主要な渡来地である。</p> <p>国外では朝鮮半島西海岸、中国遼寧省沿岸及びロシアウラジオストック付近の無人島で繁殖し、朝鮮半島南西部の韓国済州島、中国大陸沿岸、台湾、ベトナム、カンボジアで越冬する。</p>
		③存続を脅かす要因	<p>開発に伴う生息地の減少。干潟の減少に伴う採食場所の減少、釣り人などによる休息場所のかく乱。</p>
		④その他	<p>鳥獣保護管理法により、捕獲には許可が必要である。</p> <p>生息域が広く、複数の保護区に該当する可能性がある（国指定天然記念物（万之瀬川河口域のハマボウ群落及び干潟生物群集）等）。</p> <p>国際的な観点から、標識調査や発信器による人工衛星追跡などによる渡り生態の調査や越冬数の一斉カウントなどがなされている。</p> <p>工事に伴うミティゲーション対策が実施された事例がある。</p>
<p>5. シマクイナ (<i>Coturnicops exquisitus</i>)</p> <p>分類：クイナ科</p> <p>環境省RLランク： 絶滅危惧IB類 (EN)</p>	ウ	①種の特徴	<p>全長は約12cm。雌雄同色。頭頂から背面は褐色で黒色縦斑と白色の細い横斑がある。顔、胸は褐色で白斑がある。喉と次列風切羽は白い。嘴は暗褐色、脚は黄褐色。虹彩は茶褐色。</p> <p>下層植生が豊富な湿性草原環境に生息する。渡り時期や越冬期にはヨシ原、湿った草原、水田などを利用する。</p>
		②分布域	<p>夏季には北日本に生息し、非繁殖期には全国的に偶発的渡来の記録があり、本州から琉球列島で越冬するとされる。</p>
		③存続を脅かす要因	<p>乾燥化による植生変化、開発に伴う生息地の減少、水田の冬期乾田による餌資源の減少。</p>
		④その他	<p>鳥獣保護管理法により、「希少鳥獣」に指定され、捕獲等の行為が規制されている。</p> <p>生息地の一部は以下に含まれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国立公園、国定公園、都道府県立自然公園</li> <li>・国指定鳥獣保護区、県指定鳥獣保護区</li> </ul>

種名 (学名)	選定要件*	種の概要	
<p>6. アカコッコ (<i>Turdus celaenops</i>)</p> <p>分類：ヒタキ科</p> <p>環境省RLランク： 絶滅危惧IB類(EN)</p> <p>固有種</p>	ウ	①種の特徴	<p>全長約23cm。翼長12～13cm。体重約80g。オスは頭部が黒色で、胸部との境界は明瞭。メスはオスより淡色で、頭部と胸部の境界は不明瞭。胸部と腹部は赤褐色で、背面は赤みのあるオリーブ褐色。</p> <p>常緑広葉樹、落葉広葉樹の自然林から二次林まで広く生息しているが、常緑広葉樹の自然林で、低木層がまばらな環境で生息密度が高い。</p>
		②分布域	<p>東京都と鹿児島県で繁殖する。冬期に静岡県や千葉県に移動する個体もある。</p>
		③存続を脅かす要因	<p>外来動物(ホンDOIタチ、ノネコ等)による捕食、開発に伴う生息地の減少。</p>
		④その他	<p>鳥獣保護管理法により、捕獲には許可が必要である。国指定天然記念物。</p> <p>生息地の一部は以下に含まれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国立公園、都道府県立自然公園</li> </ul> <p>民間団体によるアカコッコ保護事業が行われている。</p>
<p>7. オオヨシゴイ (<i>Ixobrychus eurhythmus</i>)</p> <p>分類：サギ科</p> <p>環境省RLランク： 絶滅危惧IA類(CR)</p>	ウ	①種の特徴	<p>全長約40cmで、嘴・首・脚は長く、尾は短い。虹彩は黄色だが後方に黒い斑紋があり、瞳孔と繋がったように見えるのが大きな特徴である。オス成鳥では、頭と背は暗栗色、翼の上面は灰褐色、喉・胸・腹は淡褐色で、尾は黒い。喉から胸にかけて黒い縦縞が1本入る。メス成鳥では、頭・背・翼上面に白い小斑点があり、喉から胸にかけて褐色の縦縞が複数入る。</p> <p>繁殖期は、低木が疎らに生える湿性草原(低層湿原・ヨシ原)に主に生息し、非繁殖期では、淡水の浅い湿地で観察される。</p>
		②分布域	<p>北海道で繁殖する。</p> <p>国外では、サハリン、千島列島南部、東シベリア南部、ロシア極東部、朝鮮半島、中国で繁殖する。中国南部、インドシナ半島、マレー半島、インドネシア、フィリピンで越冬する。</p>
		③存続を脅かす要因	<p>生息地の破壊、越冬地における捕獲。</p>
		④その他	<p>鳥獣保護管理法により、捕獲には許可が必要である。生息地の一部は以下に含まれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国立公園</li> <li>・国指定鳥獣保護区</li> </ul>

種名 (学名)	選定要件*	種の概要	
8. セグロミズナギドリ ( <i>Puffinus lherminieri bannermani</i> )  分類：ミズナギドリ科  環境省RLランク： 絶滅危惧 I B類 (EN)  固有亜種	ウ	①種の特徴	全長31cm、翼開長65～75cm。体の上面が黒く、下面が白い小型のミズナギドリ。翼の後方で、腹側の白色部が背側に食い込んで見える。鼻孔が上向きに開口している。 森林または草原の地面に掘った穴の中で繁殖している。
		②分布域	東京都に分布する。
		③存続を脅かす要因	外来動物（クマネズミ）による捕食、外来植物（ギンネム、ジュズサンゴ等）による営巣環境の劣化。
		④その他	鳥獣保護管理法により、捕獲には許可が必要である。生息地の一部は以下に含まれる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・国立公園</li> <li>・自然環境保全地域</li> <li>・国指定鳥獣保護区</li> </ul> 東島では、2008年にクマネズミ駆除が行われ、その後クマネズミは確認されていない。 また、本種の保護を直接の目的としたものではないが、営巣環境に悪影響を与えるとの情報がある外来植物（トクサバモクマオウ、ギンネム）の駆除事業が実施されている。

＜爬虫類＞

種名 (学名)	選定要件*	種の概要	
<p>9. サキシマカナヘビ (<i>Takydromus dorsalis</i>)</p> <p>分類：カナヘビ科</p> <p>環境省RLランク： 絶滅危惧II類 (VU)</p> <p>固有種</p>	ウ、エ	①種の特徴	<p>全長250～320mm、頭胴長60～70mm。背面、側面は鮮やかな緑色で眼の前後に黒条がある。腹面は淡緑黄色。雌雄同色。アオカナヘビなど他のカナヘビ属の種は背面の鱗が大きく角形であるのに対して、背面の鱗が小さく円形で背面は滑らかである。咽頭板は4対。鼠径孔は2～3対。</p> <p>草地および明るい樹林に生息する。樹上性の習性が強く、低木の樹冠と草むらを広く利用して行動する。</p>
		②分布域	沖縄県に分布する。
		③存続を脅かす要因	開発に伴う生息地の減少、販売目的の採集、外来動物（インドクジャク）による捕食。
		④その他	<p>石垣市自然環境保全条例に基づく、石垣市希少野生動物植物保全種。</p> <p>生息地の一部は以下に含まれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国立公園</li> </ul> <p>地方自治体によってインドクジャクの調査・防除が進められているとともに、この外来種によって負の影響を受けてきたと予想されるトカゲ類の生息調査が実施されている。</p>
<p>10. ミヤコヒバァ (<i>Hebius conelarus</i>)</p> <p>分類：ナミヘビ科</p> <p>環境省RLランク： 絶滅危惧IB類 (EN)</p> <p>固有種</p>	ウ	①種の特徴	<p>成体の頭胴長はオス400～550mm、メス400～660mm程度。体鱗は明瞭なキールをもち、胴の前部から中部にかけては19列、後部では17列に並ぶ。背面の地色はくすんだ褐色で、胴の前半部の左右には、横断方向に数本の白帯がある。この白帯は後方で徐々に短くなり、胴の後半部では不明瞭な淡色斑へと移行する。頸部にも良く目立つ白色の斑紋があるが、琉球の他の同属種の場合と違い左右のものは大きく離れており、両方がまとまってY字状やハの字状となることはない。</p> <p>池沼とその周辺の湿地、草原、低木林、疎林などに見られる。</p>
		②分布域	沖縄県に分布する。
		③存続を脅かす要因	土地造成、開発に伴う生息地の減少、外来動物（イタチ、インドクジャク等）による捕食。
		④その他	<p>宮古島市自然環境保全条例指定希少野生動物植物。</p> <p>生息地の一部は以下に含まれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・都道府県立自然公園</li> </ul>

種名 (学名)	選定要件*	種の概要	
<p>11. リュウキュウヤマガメ (<i>Geoemyda japonica</i>)</p> <p>分類：イシガメ科</p> <p>環境省RLランク： 絶滅危惧II類 (VU)</p> <p>固有種</p>	ウ, エ	①種の特徴	<p>甲長65～156mm程。背甲は比較的細長く、全体的な盛り上がりは弱い。椎甲板と左右の肋甲板の上にそれぞれ1本、顕著な隆起（キール）が前後方向に走る。背甲の後縁には明瞭な鋸歯状の切れ込みがある。腹甲には蝶番構造はない。背甲の地色は普通茶褐色で、各隆起の部分には黒条が走ることが多い。腹甲はほぼ全面が黒色で、黄色の縁取りがある。</p> <p>常緑広葉樹の自然林や回復の進んだ二次林に生息する。</p>
		②分布域	<p>沖縄県に分布する。</p>
		③存続を脅かす要因	<p>河川開発、道路工事、ダム建設等の各種開発に伴う生息地の減少、違法採取、外来種による影響（マングース、ノネコ等による捕食。ヤエヤマイシガメ、セマルハコガメ等による交雑）、車両等による轢死、衝突死。</p>
		④その他	<p>国指定天然記念物。</p> <p>ワシントン条約の附属書II掲載種。</p> <p>生息地の一部は以下に含まれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国立公園、国定公園、都道府県立自然公園</li> </ul> <p>沖縄島では、環境省がマングースおよびノネコの捕獲を実施している。</p> <p>断続的に違法採集が行われていると考えられる。海外のインターネット等で生体の流通が確認されているほか、2018年10月には香港に本種60個体を密輸しようとした日本人が摘発された事例がある。現在環境省等では、密猟・密輸対策を強化する取組を進めている。</p>

<魚類>

種名 (学名)	選定要件*	種の概要	
<p>13. セボシタビラ (<i>Acheilognathus tabira nakamurae</i>)</p> <p>分類：コイ科</p> <p>環境省RLランク： 絶滅危惧IA類 (CR)</p> <p>固有亜種</p>	ウ	①種の特徴	<p>タナゴ類の中では体高が低い。雄の婚姻色は、背中から体側部分は青緑色、鰓蓋後方や腹側、背鰭外縁が赤みを帯びる。稚魚と幼魚、小型のメス成魚の背鰭に顕著な黒斑が見られること、婚姻色の雄の鰭の色などから他のタビラ類と識別できる。</p> <p>平野部の流れが緩い本流から支流に生息する。</p>
		②分布域	熊本県、福岡県に分布する。
		③存続を脅かす要因	河川開発に伴う生息地の減少、外来種による捕食、環境改変による二枚貝の減少、愛好家等による採集。
		④その他	NGOと大学が、農業者と連携した保全活動を実施している。
<p>15. アリアケヒメシラウオ (<i>Neosalanx reganius</i>)</p> <p>分類：シラウオ科</p> <p>環境省RLランク： 絶滅危惧IA類 (CR)</p> <p>固有種</p>	ウ	①種の特徴	<p>体は細長くやや側扁し、頭部は少し縦扁するが、その程度は他のシラウオ科魚類より弱い。吻は丸く、下顎は上顎より長い。下顎前縫合突起がない。両顎には微小な歯を備える。体は無色透明。オス成魚はメスより頭が大きく、体高が少し高い。体長50～60mmに達する。背鰭鰭条数13～14、臀鰭鰭条数23～26、鰓耙数15、脊椎骨数52～56。幽門垂はない。オスの臀鰭基部には吸盤状の鱗が16～17枚ある。</p> <p>河川感潮域上部の淡水性の強い部分に生息する。河川流量や潮汐による変動はあるが、生涯を通じて河川感潮域上部の狭い範囲にのみ出現する。</p>
		②分布域	福岡県、佐賀県に分布する。
		③存続を脅かす要因	堰の存在や、河口域での砂の採取、河床の掘削による繁殖場所の減少。
		④その他	保護の取組みはなされていない。



<昆虫類>

種名 (学名)	選定要件*	種の概要	
<p>16. リュウキュウヒメミズスマシ (<i>Gyrinus ryukyuensis</i>)</p> <p>分類：ミズスマシ科</p> <p>環境省RLランク： 絶滅危惧IA類 (CR)</p> <p>固有種</p>	ウ	①種の特徴	<p>体長4.0～5.0mm。体型は長卵形。背面は黒色で光沢があり、強く隆起する。上翅の点刻列は明瞭で、とくに第7～10条は溝状になる。 植物が豊富で水質の良い止水域。ため池、水田周辺の水たまり、河川周辺の浅い湿地などに生息する。</p>
		②分布域	鹿児島県、沖縄県に分布する。
		③存続を脅かす要因	湖沼開発、湿地開発、管理放棄、遷移進行などによる生息適地の消滅、水質汚濁、農薬汚染による生息環境悪化。
		④その他	<p>竹富町自然環境保護条例による特別希少野生動植物に指定されており、捕獲が禁止されている 生息地の一部は以下に含まれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国立公園</li> </ul> <p>繁殖には至っていないが、卵から成虫までの飼育技術が開発されている。</p>
<p>18. ガマアシナガアリ (<i>Aphaenogaster gamagumayaa</i>)</p> <p>分類：アリ科</p> <p>環境省RLランク：なし (2018年 新種記載のため)</p> <p>固有種</p>	ウ	①種の特徴	<p>体長8mm程度。洞窟に生活する生物の傾向として、色素の退化、目の退化、脚や触角の発達などが知られているが、本種もアシナガアリとしては非常に薄い体色、矮小化した複眼、脚と触角の伸長傾向が認められる。真洞窟性の可能性が極めて高く、コウモリのグアノを運搬する姿が複数回観察されていることから、コウモリに依存して生息している可能性がある。</p>
		②分布域	沖縄県に分布する。
		③存続を脅かす要因	開発による洞窟環境の悪化、洞窟周辺林の開発に伴うコウモリ類の減少
		④その他	

種名 (学名)	選定要件*	種の概要	
<p>19. カシワアカシジミ冠高原 亜種 (<i>Japonica onoi mizobei</i>)</p> <p>分類：シジミチョウ科</p> <p>環境省RLランク： 絶滅危惧IA類 (CR)</p> <p>固有亜種</p>	ウ、エ	①種の特徴	<p>小型（雌雄とも前翅長：20～25 mm）。翅は表裏とも淡橙色で、翅表の前翅翅頂部および後翅肛角部、尾状突起は黒色となる。裏面には外中央部、中央部および中室に銀白色線で縁取られた橙色の太い帯が走流。後翅亜外縁には赤橙色帯とその内側に弦月形銀白色斑列が並び、外側には黒点列があり、特に2室と肛角部で黒点が目立つ。</p> <p>植生遷移が進まない湿地帯の疎林で、カシワ林が優勢なクヌギやミズナラとの混交林に生息する。</p>
		②分布域	広島県、山口県に分布する。
		③存続を脅かす要因	開発に伴う生息地の減少、遷移進行に伴う産卵場所の減少、愛好家による採集。
		④その他	<p>生息地の一部は以下に含まれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国定公園</li> </ul>

<貝類>

種名 (学名)	選定要件*	種の概要	
<p>20. オモイガケナマイマイ (<i>Aegista inexpectata</i>)</p> <p>分類：オナジマイマイ科</p> <p>環境省RLランク： 絶滅危惧 I 類 (CR+EN)</p> <p>固有種</p>	ウ、エ	①種の特徴	<p>貝殻は小型（殻高3.4mm、殻径11.5mm）で薄質、淡黄褐色、円盤状で上部は著しく偏平、下部に膨れる。螺層は5.5層。殻表は多少の光沢を持ち、殻皮毛はない。体層周縁は鋭い龍角を持つ。臍孔は広く開き、殻径の3分の1を占める。</p> <p>石灰岩地帯の岩壁の割れ目や石灰岩の下、雨により浸食された石灰岩の窪み等に付着しているが、雨後には岩上を這う個体を発見することもできる。</p>
		②分布域	愛知県、静岡県に分布する。
		③存続を脅かす要因	愛好家による捕獲、乾燥化・石灰岩採掘による生息地の破壊。
		④その他	<p>愛知県の自然環境の保全及び緑化の推進に関する条例による指定希少野生動植物種。</p> <p>生息地の一部は以下に含まれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・都道府県立自然公園</li> <li>・国指定天然記念物</li> </ul>
<p>21. ヘリトリケマイマイ (<i>Aegista marginata</i>)</p> <p>分類：オナジマイマイ科</p> <p>環境省RLランク： 絶滅危惧 I 類 (CR+EN)</p> <p>固有種</p>	ウ、エ	①種の特徴	<p>殻径は山地により異なる。貝殻は堅固で硬質、低円錐形状（レンズ形）。殻表は光沢がなく、淡黄褐色を呈する。体層周縁は鋭いキールとなるとともに、突出して白色になる。殻口縁は白色で肥厚して、反曲する。臍孔は殻径の5分の1程度にやや狭く、その縁は角立たない。ケマイマイ類の中では、殻表に明瞭な毛状突起を持たない特殊な形態で、他種との比較は容易である。</p> <p>自然度が高い石灰岩地帯の自然林下の石灰岩露頭・巨石の堆積の間や落ち葉下に生息する。</p>
		②分布域	沖縄県に分布する。
		③存続を脅かす要因	愛好家による捕獲、開発による生息地の消失。
		④その他	<p>生息地の一部は以下に含まれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国立公園、国定公園</li> </ul>

種名 (学名)	選定要件*	種の概要	
<p>22. ムラヤママイマイ (<i>Euhadra murayamai</i>)</p> <p>分類：オナジマイマイ科</p> <p>環境省RLランク： 絶滅危惧 I 類 (CR+EN)</p> <p>固有種</p>	エ	①種の特徴	<p>貝殻は左巻き、大型（殻高11.0～15.0mm、殻径29.0～41.0mm）、多少薄質、著しく扁平でやや逆茶碗型であり、背面はほとんど水平となる。螺層は5.5層。体層が大きく、その周縁は円い。通常は周縁部の第2帯と臍孔部の第4帯が明瞭であるが、第1帯と第3帯の色帯は不鮮明である。殻口外唇は広がって多少反曲する。臍孔は開く。</p> <p>本種は石灰岩地の岩壁や岩場を生息場所としていて、日中においては石灰岩地の岩陰や岩の割れ目などで仮眠して潜み、夜間になって適度な湿度が得られると、這い出して活動する。</p>
		②分布域	新潟県に分布する。
		③存続を脅かす要因	愛好家による捕獲。
		④その他	<p>生息地の一部は以下に含まれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・都道府県立自然公園</li> </ul>
<p>23. ナチマイマイ (<i>Euhadra nachicola</i>)</p> <p>分類：オナジマイマイ科</p> <p>環境省RLランク： 絶滅危惧 I 類 (CR+EN)</p> <p>固有種</p>	ウ、エ	①種の特徴	<p>貝殻は大型（殻高20.0～21.0mm、殻径48.0～51.0mm）、濃褐色。殻表の成長脈と螺状脈ともきわめて弱く、平滑で光沢があって滑らかである。螺層は6.0層。1234型や0204型の色帯を持っている個体のほか時には無帯個体もある。殻表に火炎彩模様はない。殻口唇縁は厚くて外に向かって反曲する。臍孔は殻径の4分の1を占める。</p> <p>日中は森林下の巨岩の岩陰や古びた石垣の窪みの中などに潜んでおり、夜になると活動する。</p>
		②分布域	和歌山県に分布する。
		③存続を脅かす要因	愛好家による捕獲、自然災害・石垣の改修による生息環境悪化。
		④その他	<p>生息地の一部は以下に含まれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国立公園</li> <li>・国指定天然記念物</li> </ul>

種名 (学名)	選定要件*	種の概要	
<p>24. サドマイマイ (<i>Euhadra sadoensis</i>)</p> <p>分類：オナジマイマイ科</p> <p>環境省RLランク： 絶滅危惧 I 類 (CR+EN)</p> <p>固有種</p>	ウ、エ	①種の特徴	<p>貝殻は中型（殻高16.0～19.0mm、殻径24.0～27.0mm）、円錐形状。螺層は5.5層。殻色は黄褐色で光沢があり、色帯は種々な型（0200型、1234型）や無帯（0000型）がある。体層周縁は円い。臍孔は狭いながらも開き、深い。殻口外唇は白色で外側に反転する。日本産マイマイ属の中では小型。</p> <p>本種は地上性から樹上性の習性を持つ。</p>
		②分布域	新潟県に分布する。
		③存続を脅かす要因	愛好家による捕獲、生息環境の悪化。
		④その他	<p>生息地の一部は以下に含まれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国定公園</li> </ul>
<p>25. トクノシマビロウドマイマイ (<i>Nipponochloritis obscura</i>)</p> <p>分類：ナンバンマイマイ科</p> <p>環境省RLランク： 絶滅危惧 I 類 (CR+EN)</p> <p>固有種</p>	ウ	①種の特徴	<p>貝殻は小型（殻高8.2～10.0mm、殻径13.7～14.8mm）、低円錐形状で、側面から螺層が5.0層数えられる。体層周縁は円い。殻色は淡褐色で鈍い光沢がある。殻皮に細かい殻毛を密生する。殻口縁は厚くなって反曲する。臍孔は広く、殻径の6分の1を占める。</p> <p>自然度の高い林内の倒木下や、雨天では林縁沿いの道路脇の植物に覆われた法面において葉の裏などから発見されている。山地では主に倒木下から発見される。</p>
		②分布域	鹿児島県に分布する。
		③存続を脅かす要因	開発に伴う生息地の減少。
		④その他	<p>生息地の一部は以下に含まれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国立公園</li> <li>・ 国指定天然記念物</li> </ul>

種名 (学名)	選定要件*	種の概要	
<p>26. クメジママイマイ (<i>Satsuma kumejimaensis</i>)</p> <p>分類：ナンバンマイマイ科</p> <p>環境省RLランク： 絶滅危惧 I 類 (CR+EN)</p> <p>固有種</p>	ウ、エ	<p>①種の特徴</p> <p>②分布域</p> <p>③存続を脅かす要因</p> <p>④その他</p>	<p>貝殻は中～大型（殻高25.2mm、殻径30.7mm）、螺塔はやや低く、やや厚質、丸みを帯びた円錐形状。螺層は少し膨れ、その周縁部に角がなく、球形に近い印象を与える。上面に規則的で弱い皺状彫刻がある。殻表はほとんど光沢がなく、栗色、周縁には細い黒褐色の色帯があるが、地色が濃いので目立ちにくい。臍孔は軸唇に覆われて、狭く開く。殻口も同色で、やや強く肥厚し、反転する。生殖器は陰茎が比較的短く、陰茎本体の長さを超えない。陰茎付属肢は10 mm 内外でシュリマイマイ種群としては長く明瞭。鞭状器は短い。石灰岩地のドリネ状窪地の湿った林床の落ち葉堆積中や朽木の下などに生息する。</p> <p>沖縄県に分布する。</p> <p>開発に伴う生息地の減少、愛好家による捕獲。</p> <p>生息地の一部は以下に含まれる。 ・都道府県立自然公園</p>
<p>27. イシカワギセル (<i>Megalophaedusa ishikawai</i>)</p> <p>分類：キセルガイ科</p> <p>環境省RLランク： 絶滅危惧 I 類 (CR+EN)</p> <p>固有種</p>	ウ、エ	<p>①種の特徴</p> <p>②分布域</p> <p>③存続を脅かす要因</p> <p>④その他</p>	<p>貝殻はやや小型（殻高10.0～11.0mm、殻径2.3～2.5mm）、やや薄質、円筒紡錘形で白色。新鮮な殻は半透明、殻表はかすかに絹光沢を放つ。成長脈は斜めで顕著。螺層は8層で各層は微かに膨れる。殻頂の胎殻は1層半、鈍形、平滑、絹状光沢を呈し、次第に幼層に変わり、微細な成長脈をそえる。殻口は小さく洋梨状の四角形で、前面より見ると多少斜で前面に突き出す。唇縁は白色で厚く、反曲する。上板付近は浅い湾入となる。上板は長くまっすぐ立つ。螺状板は深部に位置する。下板は顕著で内部に向け螺旋する。下軸板は見えない。主襞は体層の3分の2を旋回し、その下に上・下腔襞が平行して走るが、下腔襞の方が長い。石灰洞窟内外の石灰岩露頭の落葉下に生息している。</p> <p>熊本県に分布する。</p> <p>愛好家による捕獲、開発による生息地の消失。</p> <p>熊本県野生動植物の多様性の保全に関する条例による指定希少野生動植物。 生息地の一部は以下に含まれる。 ・都道府県立自然公園</p>

種名 (学名)	選定要件*	種の概要	
<p>28. カザアナギセル (<i>Megalophaedusa spelaeonis</i>)</p> <p>分類：キセルガイ科</p> <p>環境省RLランク： 絶滅危惧 I 類 (CR+EN)</p> <p>固有種</p>	ウ、エ	①種の特徴	<p>貝殻はやや小型（殻高10.0～11.0mm、殻径2.5～3.0mm）、細長く棍棒状で濁った白色。殻表は極微細な成長脈を持つが、ほとんど平滑で多少光沢がある。螺層は9層、各層は多少膨れる。殻口は洋梨形の四角形状。唇縁は白色でよく肥厚して反曲する。上板は小さいがまっすぐ立ち、殻口上唇に達する。上板と螺状板は連結しない。下板の発達は弱い。下軸板は唇縁に達しない。上腔襞は主襞の下で出現し、短大で傾斜する。下腔襞は短い。上腔襞と下腔襞の間隔が開く。鍾乳洞内の湿った石灰岩の岩屑・粘土上に生息する。</p>
		②分布域	熊本県に分布する。
		③存続を脅かす要因	愛好家による捕獲、開発による生息地の消失、自然災害による生息環境の悪化。
		④その他	熊本県野生動植物の多様性の保全に関する条例による指定希少野生動植物。
<p>29. トクネニヤダマシギセル (<i>Stereophaedusa caudata</i>)</p> <p>分類：キセルガイ科</p> <p>環境省RLランク： 絶滅危惧 I 類 (CR+EN)</p> <p>固有種</p>	ウ、エ	①種の特徴	<p>貝殻は中型（殻高17.0～18.0mm、殻径3.7～3.8mm）、細長い紡錘形状で黄褐色。殻表に細かい成長脈があるが、光沢がない。螺層は9.5層、各層はわずかに膨れるものの、その縫合は浅い。胎殻は2層、円筒状で黄白色を呈する。唇縁は全縁で白色。肥厚して強く反曲する。上板は顕著で唇縁に達し、内部で螺状板と連なる。下板は強く螺旋しながら上板に接近する。下軸板は唇縁に達しない。主襞は短く、殻口から見えない。上・下腔襞の間に痕跡的な腔襞ができることがある。常緑広葉樹林の樹幹に付着している。</p>
		②分布域	鹿児島県に分布する。
		③存続を脅かす要因	開発等に伴う生息地の減少、愛好家による捕獲。
		④その他	<p>生息地の一部は以下に含まれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国立公園</li> </ul>

種名 (学名)	選定要件*	種の概要	
<p>30. ミヤコオキナワギセル (<i>Stereophaedusa striatella</i>)</p> <p>分類：キセルガイ科</p> <p>環境省RLランク： 絶滅危惧IA類 (CR)</p> <p>固有種</p>	ウ、エ	①種の特徴	<p>殻は大型 (殻高 27.0~30.0 mm, 殻径 6.5~7.0 mm)、紡錘形で紫褐色を呈するが、次体層や体層ではより濃色となる。螺層の縫合下では淡色となり、殻高の半分から上部は紫褐色から黄褐色へ淡くなる。成体では幼層部の3~4層が脱落し、殻頂部が折れた形状となる (殻頂欠損での殻長は24.5~29.5 mm程)。微細な成長脈が殻表を覆う。殻口は卵形。その唇縁は全縁で、大きく反曲して白色を呈する。上板は顕著に立つが、薄くて斜位、内部の螺状板と連結する。下板は大きく弧を描いて内部へ向けて旋回していく。また下板の下端は唇縁近くまで達する。下軸板は唇縁近くまで出る。主襞は側位で多少短い。主襞の下に、上・下腔襞が傾いて位置するが、その間は多少隔たる。閉弁はやや卵形で大きく湾曲し、弁状部の先端は多少尖る。柄状部の基部に湾入部が無い。</p> <p>比較的自然度の高い石灰岩地の森林環境に見られる。</p>
		②分布域	沖縄県に分布する。
		③存続を脅かす要因	開発等に伴う生息地の減少、愛好家による捕獲。
		④その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市町村条例指定希少野生動植物</li> </ul>



＜維管束植物＞

種名 (学名)	選定要件*	種の概要	
<p>31. ヒュウガヒロハテンナンショウ (<i>Arisaema minamitanii</i>)</p> <p>分類：サトイモ科</p> <p>環境省RLランク： 絶滅危惧IA類 (CR)</p> <p>固有種</p>	ウ、エ	①種の特徴	<p>夏緑性多年草。高さ20～50cm。雌雄偽異株で雄株から雌株に完全に転換する。地下に球茎があり、腋芽がほぼ2列に並ぶ。葉は1枚で偽茎部は葉柄部よりやや長く、葉身は明らかな鳥足状に分裂し、小葉間には葉軸がやや発達する。小葉は5～7枚で、狭楕円形～楕円形で両端は尖り、全縁または鋸歯縁。花序柄は短く、花序は偽茎にやや傾いてつき、仏炎苞は緑色で、半透明の白い縦条が多数あり、筒部は淡色、やや上に開き、口部は狭く反曲し、舷部は三角状卵形で前傾する。花序付属体は基部に柄があり、太棒状で白色、先は仏炎苞の筒口部とほぼ同じ高さ。1子房中に6～9個の胚珠がある。果実は赤く熟す。</p> <p>ヒロハテンナンショウに似るが、葉は中央小葉が最大、葉縁に鋸歯があるものもあり、仏炎苞筒部に隆起条がなく、舷部先端は鋭尖頭、球茎は子球をつけず、染色体数も異なる。シコクヒロハテンナンショウにも似るが、花茎が短く、仏炎苞が大きく、白条が明確、舷部先端は鋭尖頭になり、雄花の葯が融合しない。</p> <p>山地の林床、林縁に生育。</p>
		②分布域	九州南部に分布する。
		③存続を脅かす要因	園芸採取、土砂崩壊。
		④その他	<p>生育地の一部は以下に含まれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国立公園、国定公園、都道府県立自然公園</li> <li>・植物園で種子を発芽させ、花を咲かせるまで育てた実績あり。</li> <li>・研究機関により本種を含むテンナンショウ類の研究が進められている。</li> </ul>
<p>32. アソサイシン (<i>Asarum misandrum</i>)</p> <p>分類：ウマノスズクサ科</p> <p>環境省RLランク：-</p>	ウ、エ	①種の特徴	<p>多年草。萼筒は上下に押しつぶされたような扁球形で、径は11.5～16mmで、長さは径の半分ほどである。萼口は広く開き、萼裂片は強く反り返る。日当たりの良い草原、林縁に生育。</p>
		②分布域	<p>熊本県に分布する。</p> <p>国外では韓国南部に分布する。</p>
		③存続を脅かす要因	草地開発、園芸採取、管理放棄による植生遷移。
		④その他	<p>生育地の一部は以下に含まれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国立公園</li> <li>・熊本県野生動植物の多様性の保全に関する条例指定希少野生動植物</li> </ul>

種名 (学名)	選定要件*	種の概要	
<p>33. フクエジマカンアオイ (<i>Asarum mitoanum</i>)</p> <p>分類：ウマノスズクサ科</p> <p>環境省RLランク：-</p> <p>固有種</p>	ウ、エ	①種の特徴	<p>多年草。花の外観はサンヨウアオイ類に似るが、がく筒はやや台形状。子房の位置は半下位で、内外2輪に配置する雌蕊のうちの外側の6個だけが完全に消失している。花柱の形態と柱頭の位置でも特異性が認められる。</p> <p>山地の林床に生育。</p>
		②分布域	長崎県に分布する。
		③存続を脅かす要因	園芸採取、開発等とそれに伴う生育地の減少、道路の拡張工事。
		④その他	<p>生育地の一部は以下に含まれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国立公園</li> <li>・都道府県指定自然環境保全地域</li> </ul> <p>・長崎県未来につながる環境を守り育てる条例指定希少野生動植物</p>
<p>34. ツシマヒョウタンボク (<i>Lonicera fragrantissima</i>)</p> <p>分類：スイカズラ科</p> <p>環境省RLランク： 絶滅危惧IB類 (EN)</p>	ウ、エ	①種の特徴	<p>落葉低木。高さは0.5～2m。枝はときに硬毛が生え、中実。葉は長楕円形～卵形、長さ2.5～5.5cm、幅1.5～3cm、先は鈍頭凸端、基部は円形～広いくさび形、やや厚く、無毛、または縁および裏面中脈上に硬毛があり、葉柄は長さ2～5mm、硬毛を散生する。花は3～4月、葉に先立って開く。花柄は長さ4～7mm、ときに硬毛があり、頂に2花をつける。苞は披針形、長さ5～7mm、幅1.5～2mm、小苞は不明。子房は下部合着し、無毛、萼歯はごく小さい。花冠は長さ約10mm、白色で淡黄色をおび、ときに硬毛があり、花冠の内面は有毛。5裂し、花筒は長さ4～5mm、裂片は長楕円形で長さ5～6mm、幅2～3mm。雄蕊、花柱は花筒より長く超出する。液果は球形で長さ約10mm、下部は合着し、4～5月に紅熟する。種子は長さ約3mm。</p> <p>落葉樹林の林床に生育。</p>
		②分布域	<p>長崎県に分布する。</p> <p>国外では朝鮮半島、濟州島、中国に分布する。</p>
		③存続を脅かす要因	シカ食害による環境変化、園芸採取、シカによる食害、産地局限、開発に伴う生育地の減少。
		④その他	<p>生育地の一部は以下に含まれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国定公園</li> </ul>

種名 (学名)	選定要件*	種の概要	
<p>35. ヤブヒョウタンボク (<i>Lonicera linderifolia</i> var. <i>linderifolia</i>)</p> <p>分類：スイカズラ科</p> <p>環境省RLランク： 絶滅危惧IB類 (EN)</p> <p>固有変種</p>	ウ、エ	①種の特徴	<p>落葉小低木。樹高1～2m。枝は密に分岐し、中実、短い屈毛がある。古くなると縦に裂けて剥離する。葉は楕円形～披針形、下面は粉白色となり、長さ1～6cm、幅7～20mm、先はやや鈍頭、基部はくさび形～円形、両面に短い屈毛があり、葉柄は長さ2～4mm。花柄は細く、長さ1.5～2.5cm、短い屈毛があり、5～6月、頂に2花が下垂する。苞は線形、長さ2.5～8mm、短屈毛と細腺毛がある。小苞は小さく不明瞭。子房は離生し、萼歯はごく短い。花冠は鐘形～広鐘形で暗紫色、長さ7～9mm、径約4mm。花筒は太く長さ約5mm、5裂片は広卵形で同大、長さ1.5～4mm。花柱は下部に毛がある。液果は球形で離生し、径5～8mm、7～8月に紅熟する。種子は長さ約2.5mm。</p> <p>山地～亜高山帯の林床の岩角地に生育。</p>
		②分布域	岩手県に分布する。
		③存続を脅かす要因	園芸採取、開発等に伴う生育地の減少、シカ食害の懸念。
		④その他	<p>生育地の一部は以下に含まれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国定公園、都道府県立自然公園</li> <li>・ 国指定自然環境保全地域</li> <li>・ 国指定天然記念物</li> </ul> <p>・ 一部の生育地では防鹿柵を設置</p> <p>・ 一部の自然公園では、保護管理員が登山者の監視を実施</p>
<p>36. ヒナヒゴタイ (<i>Saussurea japonica</i>)</p> <p>分類：キク科</p> <p>環境省RLランク： 絶滅危惧IB類 (EN)</p>	ウ	①種の特徴	<p>可変性二年草。高さ(20～)50～200cm、全体にまるい腺と毛状突起が密生している。根は紡錘形で垂直に伸びる。茎は直立し、狭い翼があるかまたはなく、上部でよく分枝する。下方の葉は楕円形で羽状に中裂する。根出葉と下部の茎葉は花時に生存しない。中部の茎葉の葉身は草質、楕円形～狭卵状楕円形、長さ7～30cm、幅3.5～9cm、羽状深裂して5～8対の裂片があるか、あるいは鋸歯縁となり、両面に腺点と多細胞の短褐色毛とがあり、葉柄は長さ3～6cm。花は9～11月。花序は散房状あるいは円錐状で、径60cmほどに広がる。頭花は多数が花序に密集してつき、径12～16mm、柄は細く、長さ0.5～20mm。総苞は筒形～狭筒形、長さ10～13mm、径5～8(-10)mm、くも毛があり、基部に狭卵形の苞葉が1列ある。総苞片は8～9列、総苞片は狭卵形、すべての総苞片の先端に淡紅紫色の膜質の付属体があり、中片と内片の付属体は円形、外片の付属体は小さく、楕円状、外片は長さ2～3mm。花冠は長さ10～14mm、紅紫色、腺点がある。瘦果は長さ3～4mm、象牙色で紫褐色の条と斑点がある。冠毛は2列、内輪は長さ7～9mm、外輪は長さ2mm。</p> <p>低山地～丘陵地や海岸の草原に生育。</p>
		②分布域	<p>九州に分布する。</p> <p>国外では朝鮮半島、台湾、中国(新疆とチベットを除く全域)、モンゴルに分布する。</p>

種名 (学名)	選定要件*	種の概要	
		③存続を脅かす要因	草原の管理放棄、遷移進行、生育地の開発。
		④その他	<p>生育地の一部は以下に含まれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国立公園、都道府県立自然公園</li> <li>・一部の生育地では草原の維持管理を地区住民、農家、牧組合等が実施</li> <li>・一部の生育地では地方自治体がボランティアの募集・派遣を行い、地域住民等による保全活動をサポート</li> </ul>
<p>37. ハナナズナ (<i>Berteroella maximowiczii</i>)</p> <p>分類：アブラナ科</p> <p>環境省RLランク： 絶滅危惧IA類 (CR)</p>	ウ	①種の特徴	<p>二年草。高さ20～60cm。全体に星状毛がある。茎は直立して、上部で分枝する。葉は互生し、倒卵形～広倒披針形、無柄または短い柄があり、先は円形で先端は小さくとがり、基部はくさび形、長さ1.2～4cm、幅4～13mm。総状花序をつけ、花期は5～10月。萼片は線形、長さ1.5～2.5mm。花弁は4枚で淡紅色、長楕円状へら形、長さ3～4mm、円頭。長角果は長さ8～15mm、星状毛を密布する。種子は長楕円形で長さ0.8～1mm。平地（現存は斜面の崩壊地のみ）に生育。</p>
		②分布域	岡山県（絶滅）、広島県（絶滅）、長崎県に分布する。国外では朝鮮半島・中国東北部に分布する。
		③存続を脅かす要因	シカによる食害、シカの影響による乾燥化、斜面の崩落、土地開発、道路工事。
		④その他	<p>生育地の一部は以下に含まれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国定公園</li> <li>・長崎県未来につながる環境を守り育てる条例指定希少野生動植物</li> <li>・生育地に防鹿柵を設置し、シカの駆除を実施。また、個体数確認のためのモニタリングを実施。</li> <li>・日本植物園協会加盟園1園で保有</li> <li>・植物園および大学で生息域外保全を実施</li> <li>・個人宅で種子による継代栽培を実施</li> </ul>
<p>38. ビャッコイ (<i>Isolepis crassiuscula</i>)</p> <p>分類：カヤツリグサ科</p> <p>環境省RLランク： 絶滅危惧IA類 (CR)</p>	ウ	①種の特徴	<p>多年生の水生植物。草長20～40cmで斜上する。稈はやや叢生し、葉をまばらにつける。花序のつかない茎は流水中では伸長分枝し、湿地では短くて分枝し、ともに葉をつける。花序のある茎は基部の他は葉がなく、長さ5～15cm。葉身は線形でやや円柱形、長さ5～10cm、幅1～2mm、平滑。8～10月頃、稈頂に花序を付ける。花序は頂生する1個の小穂からなり、淡緑色。総苞片は発達しない。小穂は長楕円形で長さ5～8mm。小穂の鱗片は長さ3～4.5mm、鈍頭。雄蕊は3個。花柱は2岐。花被片はない。そう果は狭倒卵形、両凸レンズ形で長さ1.5～1.7mm、幅0.8mm、灰褐色で光沢がある。湧水地、湿地、浅い流水中に生育。</p>
		②分布域	福島県、栃木県（絶滅）に分布する。国外ではインドネシア、ニューギニア、オーストラリア、ニュージーランドに分布する。
		③存続を脅かす要因	管理放棄による生育環境の悪化、遷移進行、産地局限、土地造成、湧水の減少等。

種名 (学名)	選定要件*	種の概要	
		④その他	<p>生育地の一部は以下に含まれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国立公園、国定公園、都道府県立自然公園</li> <li>・県指定自然環境保全地域</li> </ul> <p>・福島県野生動植物の保護に関する条例指定希少野生動植物</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育委員会が生育地の外来種駆除を実施</li> <li>・日本植物園協会加盟園 1 園で保有</li> <li>・水族館で株を保有</li> </ul>
<p>39. キュウシュウイノデ (<i>Polystichum grandifrons</i>)</p> <p>分類：オシダ科</p> <p>環境省RLランク： 絶滅危惧IA類 (CR)</p>	ウ、エ	①種の特徴	<p>常緑多年生シダ植物。根茎は短く、塊状。葉柄は長さ30～50cm、やや密に鱗片をつける。葉身は2回羽状複生、広卵状披針形、長さ50～90cm、幅20～25cm、上部の羽片は急に短くなるので葉身はほこ形に見える。中軸には鱗片があり、羽片は長さ12～18cm、幅3～4cm。孢子嚢群は小羽片の中肋と辺縁の中間に1列に並ぶか、列外にも散らばり、小さい円形、包膜はない。低地の林床に生育。</p>
		②分布域	<p>九州南部に分布する。 国外では中国、インド北東部、ベトナムに分布する。</p>
		③存続を脅かす要因	<p>開発等に伴う生育地の減少、シカによる食害、園芸採取。</p>
		④その他	<p>生育地の一部は以下に含まれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・都道府県立自然公園</li> <li>・日本植物園協会加盟園 1 園で保有</li> </ul>
<p>40. ヒメタツナミソウ (<i>Scutellaria kikai-insularis</i>)</p> <p>分類：シソ科</p> <p>環境省RLランク： 絶滅危惧IB類 (EN)</p> <p>固有種</p>	ウ	①種の特徴	<p>多年草。茎は針金状で地表をはい、節から根を下ろし、まばらに分枝し、上部は立ち上がり、開出する細毛を密生する。葉は長さ4～10mmの柄があり、葉身は三角状広卵形で長さ5～9mm、幅4～8mm、やや鋭頭、基部は切形ないし浅心形、縁には2～3対のややとがった鋸歯があり、上面はまばらに粗い毛があり、下面は脈に沿って毛があるほかは無毛。花期は3～4月。花穂は長さ2～4cm、花序軸は腺毛がある。花冠は淡紫色、またはほとんど白色で長さ10～12mm、上唇は長さ3mm、下唇は長さ4mm内外。萼は花時に1～1.5mm、果時には4mmに達する。分果は長さ約1mm。隆起サンゴ石灰岩の岩場、湿った草地に生育。</p>
		②分布域	<p>鹿児島県に分布する。</p>
		③存続を脅かす要因	<p>産地局限、道路工事。</p>
		④その他	<p>生育地の一部は以下に含まれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市町村指定天然記念物</li> <li>・日本植物園協会加盟園 3 園で保有</li> <li>・保護活動として生育地に看板を設置</li> </ul>

種名 (学名)	選定要件*	種の概要	
<p>41. タマボウキ (<i>Asparagus oligoclonos</i>)</p> <p>分類：ユリ科</p> <p>環境省RLランク： 絶滅危惧IB類 (EN)</p>	ウ	①種の特徴	<p>多年草。茎は高さ50～100cm、多く分枝し、枝は3稜形で稜角に小突起がある。太い枝の葉は長さ7mm位であるが、刺状にはならない。葉状枝はまっすぐで湾曲しない。花は5～6月に開き、黄緑色で長さ6～7mm。雌雄異株。花柄は長さ7～8mm、中央部付近に関節がある。葯は長楕円形で花糸より長い。液果は球形、径7～9mm、赤く熟す。</p> <p>丘陵地～山麓の草原に生育。</p>
		②分布域	<p>九州に分布する。</p> <p>朝鮮半島、中国北東部、モンゴル、ロシア（シベリア以東）に分布する。</p>
		③存続を脅かす要因	<p>管理放棄、遷移進行。</p>
		④その他	<p>生育地の一部は以下に含まれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国立公園、都道府県立自然公園</li> <li>・熊本県野生動植物の多様性の保全に関する条例指定希少野生動植物</li> <li>・大分県希少野生動植物の保護に関する条例指定希少野生動植物</li> <li>・一部の生育地では草原の維持管理を実施</li> <li>・一部の生育地ではボランティアの照会を行い、保全団体による保全活動がサポートされている。</li> </ul>
<p>42. サガミジョウロウホトトギス (<i>Tricyrtis ishiiiana</i> var. <i>ishiiiana</i>)</p> <p>分類：ユリ科</p> <p>環境省RLランク： 絶滅危惧IB類 (EN)</p> <p>固有変種</p>	ウ、エ	①種の特徴	<p>多年草。葉は互生、卵状長楕円形で、基部の両側に耳片があり、キイジョウロウホトトギスに似ているが、花が茎頂に2～5個、散房状の総状花序につく。花は9～10月。外花被片の基部に長さ5～6mmの胞状の距があり、葯は黄色とされる。</p> <p>林内や滝周辺の岩場に生育。</p>
		②分布域	<p>神奈川県に分布する。</p>
		③存続を脅かす要因	<p>園芸採取、産地局限、堰堤工事。</p>
		④その他	<p>生育地の一部は以下に含まれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国定公園</li> <li>・日本植物園協会加盟園 7園で保有</li> </ul>

種名 (学名)	選定要件*	種の概要	
<p>43. スルガジョウロウホトトギス (<i>Tricyrtis ishiiana</i> var. <i>surugensis</i>)</p> <p>分類：ユリ科</p> <p>環境省RLランク： 絶滅危惧IB類 (EN)</p> <p>固有変種</p>	ウ、エ	①種の特徴	<p>多年草。高さ20～80cm。茎にほとんど毛がない。葉の基部は深心形で、両側の耳片が茎を抱く。花期は9～10月。花は黄色で、茎の先に通常1～3個下向きにつく。サガミジョウロウホトトギス (EN) の変種で、形は似ているが、外花被片の基部の距は長さ約2mmで小さく、葯が赤褐色とされる。湿り気のある谷間の崖地に生育。</p>
		②分布域	静岡県、山梨県に分布する。
		③存続を脅かす要因	園芸採取、踏みつけ、岩壁の崩壊、砂防ダムの工事、自然歩道の工事。
		④その他	<p>生育地の一部は以下に含まれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国立公園</li> <li>・ 山梨県希少野生動植物種の保護に関する条例指定希少野生動植物</li> <li>・ 市町村条例指定希少野生動植物</li> <li>・ 日本植物園協会加盟園4園で保有</li> <li>・ 一部の生育地では地元団体によりモニタリングを実施</li> </ul>
<p>44. キバナノツキヌキホトトギス (<i>Tricyrtis perfoliata</i>)</p> <p>分類：ユリ科</p> <p>環境省RLランク： 絶滅危惧IB類 (EN)</p> <p>固有種</p>	エ	①種の特徴	<p>多年草。茎は長さ50～70cm、無毛で、下垂する。葉は披針形で長さ8～17cm、基部は茎を抱いて合着し、茎は葉の下部をつき抜けるようになる。9～10月、黄色の花が葉腋に1個ずつつき、上向きに開く。花柄は花より短く、腺毛が密生する。花被片は斜めに開き、長さ20～25mm、長楕円形、外片の下部に腺毛があり、基部にふくらみがある。照葉林内の溪流沿いの崖地に生育。</p>
		②分布域	宮崎県に分布する。
		③存続を脅かす要因	園芸採取。
		④その他	<p>生育地の一部は以下に含まれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 都道府県立自然公園</li> <li>・ 宮崎県野生動植物の保護に関する条例指定希少野生動植物</li> <li>・ 日本植物園協会加盟園13園で保有</li> </ul>

種名 (学名)	選定要件*	種の概要	
<p>45. ヒメイバラモ (<i>Najas tenuicaulis</i>)</p> <p>分類：イバラモ科</p> <p>環境省RLランク： 絶滅危惧IA類 (CR)</p> <p>固有種</p>	ア、イ	①種の特徴	<p>一年生の沈水植物。茎は硬く、まばらに分枝。葉は対生し、硬く線形で幅約1mm。花期は7～10月。イバラモに似るが、葉が細く葉縁の鋸歯が少数(2～4個)で茎の皮下細胞が1層(イバラモは2層)。湖沼やため池、ゆるい流水に生育。</p>
		②分布域	東日本に分布する。
		③存続を脅かす要因	池沼開発、池沼の環境悪化、産地局限。
		④その他	<p>生育地の一部は以下に含まれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国立公園、国定公園</li> <li>・ 鳥取県希少野生動植物の保護に関する条例指定希少野生動植物</li> </ul>
<p>46. エンレイショウキラン (<i>Acanthephippium pictum</i>)</p> <p>分類：ラン科</p> <p>環境省RLランク： 絶滅危惧IA類 (CR)</p>	ウ、エ	①種の特徴	<p>常緑多年草。偽球茎は肥厚し、長楕円状円筒形、長さ10cm。葉はふつう3個、卵状長楕円形、長さ20～40cm、5脈がある。花茎は単一で毛がなく、高さ15cm、3～5個の花をつける。花は上向し、壺状。外面は黄色～黄緑色で、内面は濃赤色で光沢がある。萼片と花弁の先は反り返り、唇弁は淡黄色で萼片に包まれ、基部は柄状となり、舷部は著しく反曲して3裂し、中裂片は長楕円形、側裂片はくさび状長楕円形。タイワンショウキランによく似るが、花の開出部が光沢のある暗赤色で唇弁などの形態が異なる。常緑広葉樹林のやや湿潤な林床に生育。</p>
		②分布域	<p>沖縄県に分布する。</p> <p>国外では台湾に分布する。</p>
		③存続を脅かす要因	園芸採取、開発等に伴う生育地の減少。
		④その他	<p>生育地の一部は以下に含まれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国立公園</li> <li>・ 市町村条例指定希少野生動植物</li> <li>・ 日本植物園協会加盟園3園で保有</li> </ul>



種名 (学名)	選定要件*	種の概要	
<p>47. タイワンエビネ (<i>Calanthe formosana</i>)</p> <p>分類：ラン科</p> <p>環境省RLランク： 絶滅危惧IB類 (EN)</p>	ウ、エ	①種の特徴	<p>常緑多年草。根茎は数cm匍匐し、先は長卵形の偽球茎となり、3～6葉を束生する。葉は倒披針形、上面にやや光沢があり、長さ35～50cm。総状花序は偽球茎の基部から生じ、長さ35～45cm、多数の花を密につける。花は脱落する長い包葉で包まれ、黄色、平開し、萼片と花弁は長さ1.2cm、楕円形、唇弁は長さ8mm、3裂し、側裂片は四角形、中央裂片は四角形、基部上面に2個の突起があり、基部に長さ9mmの円柱形の距がある。</p> <p>レンギョウエビネに似るが花が平開しより大きい。山地自然林の林床に生育。</p>
		②分布域	<p>沖縄県に分布する。 国外では中国南部～東南アジアに分布する。</p>
		③存続を脅かす要因	園芸採取、開発等に伴う生育地の減少。
		④その他	<p>生育地の一部は以下に含まれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国立公園</li> <li>・市町村条例指定希少野生動植物</li> <li>・日本植物園協会加盟園2園で保有</li> </ul>
<p>48. カンダヒメラン (<i>Crepidium kanda</i>)</p> <p>分類：ラン科</p> <p>環境省RLランク： 絶滅危惧IB類 (EN)</p> <p>固有種</p>	ウ、エ	①種の特徴	<p>夏緑性多年草。偽球茎は円柱形、長さ5～8cm、5～6葉を互生する。葉は楕円形、長さ6～14cm。総状花序は頂生し、長さ9～15cm、ややまばらに17～40花をつけ、苞葉は長さ3～5mmでつぼみより長い。花は帯紫緑色～濁紫色。萼片と花弁は長さ4mm、萼片は広楕円形、花弁は線形。唇弁は長さ6mm、三角状心形、先は2裂し、基部は耳状になり蕊柱を包む。</p> <p>湿性林の林床、やや明るい湿った草地に生育。</p>
		②分布域	沖縄県に分布する。
		③存続を脅かす要因	土地造成、産地局限、園芸採取、開発等に伴う生育地の減少、遷移進行。
		④その他	<p>生育地の一部は以下に含まれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国立公園</li> <li>・日本植物園協会加盟園3園で保有</li> <li>・環境アセスメントに伴う移植事例あり</li> <li>・植物園間で無菌培養苗の分譲が実施</li> </ul>

種名 (学名)	選定要件*	種の概要	
<p>49. タカサゴヤガラ (<i>Eulophia taiwanensis</i>)</p> <p>分類：ラン科</p> <p>環境省RLランク： 絶滅危惧IA類 (CR)</p>	ウ、エ	①種の特徴	<p>冬緑性多年草。偽球茎は卵形～球形、長さ1.5～3cm。葉は線形、長さ30～50cm。総状花序は数～15花をつける。花は半開し、紫色を帯びた淡黄緑色、径1.5cm、萼片と花弁は長さ11mm、唇弁は長さ1cm、白色、3浅裂し、上面に3列の長い板状突起と多数の糸状突起があり、距は長さ4～5mm。</p> <p>エダウチヤガラと同所的に生えるが、花の形態が異なる。</p> <p>日当たりのよい湿った草地、明るい林床に生育。</p>
		②分布域	<p>沖縄県に分布する。</p> <p>国外では台湾、フィリピンに分布する。</p>
		③存続を脅かす要因	<p>遷移進行、開発、園芸採取、産地局限。</p>
		④その他	<p>生育地の一部は以下に含まれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国立公園、国定公園</li> </ul>
<p>50. ヒメスズムシソウ (<i>Liparis nikkoensis</i>)</p> <p>分類：ラン科</p> <p>環境省RLランク： 絶滅危惧IA類 (CR)</p> <p>固有種</p>	ウ	①種の特徴	<p>多年草。偽球茎は卵形で4～7mm程度。葉は1.5～2cmで披針形、全縁で、多少鈍頭で基部は徐々に細くなる。葉脈は目立たない。葉は2枚展開し、その中心から花茎を伸ばす。花茎は高さ3～6cmで、上部に3～4個の花がつく。萼片は披針形で5mm、淡黄緑色。側花弁は長さ3mmで帯黄色、糸状で後方に展開し、下に曲がる。唇弁は暗紫色、縦に黒色の脈があり、長さ4mm、卵形で全縁、先はしだいに尖る。唇弁上部はくぼみ、唇弁中部でやや内巻きする。花期は6～7月。</p> <p>クモイジガバチに似るが、クモイジガバチは唇弁が倒三角形から倒心形で、先端中央部付近で強く巻き込むのに対し、本種の唇弁は倒卵形で先端がほとんど巻き込まず、ふちに微細な突起がある。</p> <p>亜高山帯～高山帯の草地や林縁に生育。</p>
		②分布域	<p>中部地方、関東地方、東北地方に分布する。</p>
		③存続を脅かす要因	<p>シカによる食害、遷移進行、シカによる踏みつけや食害に伴う生育環境変化。園芸採取の懸念。</p>
		④その他	<p>生育地の一部は以下に含まれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国立公園、国定公園</li> <li>・日本植物園協会加盟園1園で保有</li> </ul>

種名 (学名)	選定要件*	種の概要	
51. ヒメシラヒゲラン <i>(Odontochilus nanlingensis)</i>  分類：ラン科  環境省RLランク： 絶滅危惧IA類 (CR)	ウ、エ	①種の特徴	多年草。株の高さ4～8cm、茎は褐色で、長さ6～10mm、幅4～6mmの卵形の葉を3～5枚着ける。葉の裏面は紫色。花の長さは1cm。唇弁の縁が鋸歯状に切れ込んでいる。背萼片と側花弁は重なり合って兜状になり、柱頭は1個で突出しない。 常緑林の湿潤な林床に生育。
		②分布域	鹿児島県に分布する。 国外では中国広東省、台湾北部に分布する。
		③存続を脅かす要因	園芸採取、踏みつけ。
		④その他	生育地の一部は以下に含まれる。 ・国立公園  ・市町村条例指定希少野生動植物 ・地元保全団体が条例指定種の生育地パトロールを定期的実施
52. コハクラン <i>(Oreorchis itoana)</i>  分類：ラン科  環境省RLランク： 絶滅危惧IA類 (CR)	ウ、エ	①種の特徴	多年草。地中の根茎は樹枝状に分枝し、先端がラッキョウ形で白色の偽球茎に発達し、連珠状に並ぶ。偽球茎に1個の葉とやや側方に1個の花茎がつく。葉は狭披針形でかたく、長さ14～25cm、幅2～3cm、鋭尖頭、主脈が白く、ひだがいちじるしい。夏に葉は枯れる。花茎は直立し、高さ20～40cm。5～7月に4～11個の花を総状につける。萼片と側花弁は抱え気味に開き、緑を帯びた淡い暗紫褐色、狭楕円形でやや鋭頭、長さ1～1.2cm、幅4～4.5mm。背萼片は楕円形で長さ8mm。唇弁は白地に淡暗赤色の斑紋と条が入り、先端が3裂し長さ7～8mm。中裂片は大きく先端部は多少内曲する。蕊柱は湾曲した三角柱で、その腹面の両側はくさび形に突出し、唇弁の基部とつながって明瞭な顎をつくる。花粉塊は球状で4個。 亜高山帯の針葉樹林の林床に生育。
		②分布域	中部地方、関東地方に分布する。 国外では台湾、中国西部、ヒマラヤに分布する。
		③存続を脅かす要因	遷移進行、園芸採取、開発等に伴う生育地の減少、シカによる食害。
		④その他	生育地の一部は以下に含まれる。 ・国立公園、国定公園、都道府県立自然公園

種名 (学名)	選定要件*	種の概要	
<p>53. イワウラジロ (<i>Cheilanthes krameri</i>)</p> <p>分類：イノモトソウ科</p> <p>環境省RLランク： 絶滅危惧IB類 (EN)</p>	ウ、エ	①種の特徴	<p>多年生シダ植物。葉柄は葉身より長く、葉身は卵状三角形で、表面は緑色ないし褐緑色、裏面は白色、葉縁がやや幅広く裏面へ折れ反る。葉身は長さ5～8cm、幅3～4cm、下部の羽片は羽状に深裂する。包膜は孢子囊群ごとに切れ、長く連続することはない。 山地の湿った石灰岩地に生育。</p>
		②分布域	<p>関東地方に分布する。 国外では台湾、タイに分布する。</p>
		③存続を脅かす要因	<p>石灰採掘、園芸採取、山林の改変などによる生育環境の変化。</p>
		④その他	<p>生育地の一部は以下に含まれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国立公園、都道府県立自然公園</li> <li>・ 日本植物園協会加盟園 2 園で保有</li> <li>・ 一部の採掘会社が系統保存を実施</li> </ul>
<p>54. オオバシシラン (<i>Haplopteris yakushimensis</i>)</p> <p>分類：イノモトソウ科</p> <p>環境省RLランク： 絶滅危惧IA類 (CR)</p> <p>固有種</p>	ウ	①種の特徴	<p>常緑多年生シダ植物。根茎は短く匍匐し、葉が混み合っつき、葉柄はあっても短く、翼がある。葉身は線状披針形、長さ15～30cm、幅は上から1/3程度のところで最大となり、2.5cmに達する。孢子囊群は中肋の両側に各1条。 常緑広葉樹林の林床の岩や樹木に着生。</p>
		②分布域	<p>鹿児島県に分布する。</p>
		③存続を脅かす要因	<p>シカによる食害、開発等に伴う生育地の減少。</p>
		④その他	<p>生育地の一部は以下に含まれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国立公園、都道府県立自然公園</li> <li>・ 一部の生育地ではシカ防除柵を設置</li> </ul>

種名 (学名)	選定要件*	種の概要	
55. ハナカズラ ( <i>Aconitum ciliare</i> )  分類：キンポウゲ科  環境省RLランク： 絶滅危惧IB類 (EN)	ウ、エ	①種の特徴	夏緑性多年草。茎は長さ70～200cm、若い時や生育の早い段階ではほぼ直立し、のちにつる状になって他のものに巻きつき、中部以上でよく分枝する。根出葉と下部の茎葉は花期に枯れる。中部の茎葉の葉身は五角形状～五角形状円形、長さ6.5～14cm、幅6.5～14cm、3全裂～深裂し、裂片は羽状に欠刻するかあらい鋸歯があり、欠刻片あるいは鋸歯は披針形～卵形で幅2～4mm。葉柄は長さ2～4cm。花期は9～11月。花は長さ8～40cmの散房状～円錐状花序に3～10個ほどがつき、無限的、青紫色～青色～淡青色、長さ32～45mm。花柄は長さ1～6cm、屈毛が生え、小苞は線形～披針形で長さ3～5mm、花柄の中部につく。上萼片は円錐形～円筒状円錐形まれに僧帽形、長さ15～23mm、幅12～21mm、嘴は短い。花弁は無毛、舷部は長さ8～11mm、ふくらみ、距は短く囊状で、内曲しても180度以下で、唇部は長さ2～3mm先端は2浅裂し、反り返る。雄蕊は無毛あるいはまれに有毛。雌蕊は3～5個、無毛あるいはときに斜上毛が生える。袋果は長さ12～18mm。直立し、種子は長さ4mm。 草地、林縁、明るい林内に生育。
		②分布域	九州に分布する。 国外では朝鮮半島、中国東北部、ロシア沿海地方に分布する。
		③存続を脅かす要因	遷移進行、管理放棄、園芸採取、開発とそれに伴う生育地の減少。
		④その他	生育地の一部は以下に含まれる。 ・国立公園、都道府県立自然公園  ・熊本県野生動植物の多様性の保全に関する条例指定希少野生動植物 ・日本植物園協会加盟園2園で保有 ・一部の生育地では地元保全団体等が保全管理を実施 ・一部の生育地では地権者により維持管理されているが、管理形態が採草地から放牧地へ変化

種名 (学名)	選定要件*	種の概要	
<p>56. イイデトリカブト (<i>Aconitum iudemontanum</i>)</p> <p>分類：キンポウゲ科</p> <p>環境省RLランク： 絶滅危惧IA類 (CR)</p> <p>固有種</p>	ウ、エ	①種の特徴	<p>擬似一年草。茎は高さ120～200cm、斜上して先端は垂れ、中部でよく分枝し、枝は広角度によく伸長する。根出葉はときに花期に枯れる。茎葉の葉身は腎円形、長さ9～17cm、幅8～15cm、5～9中裂～浅裂し、裂片は羽状に欠刻し、欠刻片は卵形～広披針形で幅5～10mm。葉柄は長さ4～8cm。花期は8～9月。花は長さ4～18cmの総状花序に1～6個がつき、青紫色あるいはときに暗紫紅色または淡青紫色、長さ3.5～4.5cm。花柄は長さ3～6cm、開出毛が生え、上半部に腺毛を混じえ、小苞は狭披針形～線形で長さ3～5mm、花柄の中部以下につく。上萼片は円筒状円錐形、長さ19～27mm、幅15～19mm、円頭、嘴は短い。花弁は無毛、脛部は長さ11～14mm、距に向かってしだいに細くなるかわずかにふくらみ、距は細くかつ長く、360度近くに内曲し、唇部は長さ2mm、先端は2浅裂し、反り返る。雄蕊は有毛あるいはときに無毛。雌蕊は3～4個、無毛あるいは斜上毛が密生する。袋果は長さ20～30mm、斜開し、種子は長さ4mm。</p> <p>花柄と上萼片に生える開出毛と腺毛は本種独特のもので、他の種の同様の毛よりも明らかに短い。</p> <p>亜高山帯下部の沢沿い、ブナ帯のやや湿った林縁に生育。</p>
		②分布域	東北地方に分布する。
		③存続を脅かす要因	遷移進行、園芸採取、増水による流失、生育地の崩壊。
		④その他	<p>生育地の一部は以下に含まれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国立公園</li> <li>・モニタリング調査が実施されている。</li> </ul>
<p>57. オンタケブシ (<i>Aconitum metajaponicum</i>)</p> <p>分類：キンポウゲ科</p> <p>環境省RLランク： 絶滅危惧IA類 (CR)</p> <p>固有種</p>	ウ、エ	①種の特徴	<p>擬似一年草。茎は高さ70～200 cm、斜上して先端が垂れ、中部で分枝するが枝はあまり伸長しない。根出葉と下部の茎葉は花期に枯れる。中部の茎葉の葉身は腎円形、長さ7～15cm、幅9～17cm、3浅裂から5～7中裂し、裂片は羽状に切れ込み、鋸歯または欠刻片は卵状披針形で幅2～5mm。葉柄は長さ4～8cm。花期は8～9月。花は長さ4～18cmの散房状～総状花序に1～6個ほどがつき、青紫色～淡紅紫色、長さ33～45mm。花柄は長さ3～6cm、開出毛と腺毛が生え、小苞は披針形で長さ3～5mm、花柄の中部につく。上萼片は円筒状僧帽形、短い嘴があり、長さ19～27 mm、幅15～19mm。花弁は無毛、脛部は長さ11～14mm、強くふくらむかあるいは距に向かってすぼまり、距は細くかつ長く、360度近くまで内曲し、唇部は長さ2～4mm、先端は2浅裂し、反り返る。雄蕊は有毛。雌蕊は3個、背面に斜上毛がまばらに生える。袋果は長さ20mm、直立し、種子は長さ4mm。</p> <p>山地の沢沿い、林内や林縁に生育。</p>
		②分布域	群馬県、長野県に分布する。

種名 (学名)	選定要件*	種の概要	
		③存続を脅かす要因	遷移進行（竹の侵入による被陰）、各種開発等とそれに伴う生育地の減少、園芸採取、イノシシによる影響の懸念。
		④その他	生育地の一部は以下に含まれる。 ・国立公園  ・地元研究会ではモニタリング調査を実施
<p>58. ヤツガタケキンポウゲ (<i>Ranunculus yatsugatakensis</i>)</p> <p>分類：キンポウゲ科</p> <p>環境省RLランク： 絶滅危惧IA類（CR）</p> <p>固有種</p>	ウ、エ	①種の特徴	<p>多年草。茎は高さ7～20cm、分枝しない。全体に白い軟毛が生える。根出葉の葉身は腎円形、直径6～12mm、3深裂する。花茎には根出葉より大きな葉が2～3個つき、上部の葉は柄がなく、深く裂ける。花は7～8月、単生し、直径7～10mm、黄色。花弁は円形～広卵形、長さ4～5mm、蜜腺はコップ状～半月状、よく発達し、付属体はない。そう果は卵形、長さ約1.5mm、無毛、嘴は先端が少し屈曲する。</p> <p>高山帯の湿った岩の上に生育。</p>
		②分布域	長野県に分布する。
		③存続を脅かす要因	遷移進行、園芸採取の懸念、シカによる影響の懸念。
		④その他	生育地の一部は以下に含まれる。 ・国定公園
<p>59. アマミチャルメルソウ (<i>Mitella amamiana</i>)</p> <p>分類：ユキノシタ科</p> <p>環境省RLランク：-</p> <p>固有種</p>	ウ、エ	①種の特徴	<p>多年草。ヒメチャルメルソウに酷似するが植物体が明瞭により大きい。根出葉は卵形、基部は深い心形で先端は短鋭尖形、浅く5～7裂し、長さ1.7～2.9cm、幅1.4～2.4cm。裏面はときに紅紫色をおび、両面に白色のあらい毛がある。葉柄は長さ3～6cm。托葉は左右合生して卵形で、長さ2mm位、ほぼ無毛。両性。花期は3～4月。花茎は高さ6～11cmで、あらい毛と短腺毛がある。花は花茎の先端に2～3個が接近してつく。萼筒は鐘状倒円錐形で長さ3.5mm、短腺毛をまばらに生じる。萼裂片は卵状三角形、鋭頭、無毛で、長さ1～1.3mm、花時には先端のみ外曲するほかは直立する。花弁は1つの花あたり0～3個つき、花弁は分裂しないか、または2～3裂する。花糸は長さ約0.6mmで、裂開直前の葯は淡黄色。花柱は棒状で長さ約0.8mm、先端でしばしば2裂する。種子は卵形で、長さ約1mm、種皮は褐色で、乳頭状突起を散生する。</p> <p>山地の陰湿な岩壁に生育。</p>
		②分布域	鹿児島県に分布する。

種名 (学名)	選定要件*	種の概要	
		③存続を脅かす要因	大雨による生育地の消失、園芸採取、踏みつけ。
		④その他	生育地の一部は以下に含まれる。 ・国立公園  ・植物園で生息域外保全を実施
<p>60. イスミスズカケ (<i>Veronicastrum noguchii</i>)</p> <p>分類：ゴマノハグサ科</p> <p>環境省RLランク： 絶滅危惧IB類 (EN)</p> <p>固有種</p>	ウ、エ	①種の特徴	<p>多年草。茎は円柱状、反曲する軟毛を密生する。斜上して湾曲し、細く伸びて、しばしば先端が接地したところで発根し、新しい苗条を形成する。葉は互生、葉柄は長さ2～5mm、葉身は卵形、長さ7～10cm、幅4～6cm、鋭尖頭、基部は心形ときに切形、葉縁は円鋸歯状、鋸歯の先端は尖る。表面にまばらに長軟毛がある。花期は7～8月。花序は腋生、無柄、密に花をつけ、ほぼ球形、径2～3cm。苞は狭長楕円形から卵形、鋭尖頭、長さ約4mm、まばらに軟毛がある。萼は釣鐘状、ほぼ基部まで5裂し、裂片は線形から狭三角形、鋭尖頭、縁毛を除きほぼ無毛、長さ約5mm。花冠は筒状で暗青紫色～紫色、表面無毛、内面に軟毛がある。長さ約7mmで、筒部は長さ約5mm、先端は4裂し、花冠裂片は三角形、長さ約2mm、鋭頭。雄蕊は2本、花冠の基部につき、長さ11～12mm、花外に長く伸び、雌蕊よりやや短く、花糸の中部以下に軟毛がある。子房は卵形、長さ約1mm、無毛、花柱は長さ14～15mm。常緑樹林下の川岸斜面、川沿いの崖地に生育。</p>
		②分布域	千葉県に分布する。
		③存続を脅かす要因	各種開発、園芸採取、崖崩れによる生育地の消失、シカ・イノシシ・キョンによる影響の懸念。
		④その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本植物園協会加盟園3園で保有</li> <li>・譲渡した株により植物園で域外保全を実施</li> <li>・博物館では広報活動、展示を実施</li> <li>・地方自治体で域外保全を実施</li> </ul>
<p>61. イシガキスミレ (<i>Viola tashiroi</i> var. <i>tairae</i>)</p> <p>分類：スミレ科</p> <p>環境省RLランク： 絶滅危惧IA類 (CR)</p> <p>固有変種</p>	ウ、エ	①種の特徴	<p>常緑多年草。ヤエヤマスマミレによく似るが、ヤエヤマスマミレの葉は菱形であるのに対し、本変種の葉は三角状で基部が切形で、葉縁はほとんど無毛である点で異なる。花はヤエヤマスマミレより小型で、ヤエヤマスマミレでは側弁と下弁(唇弁)の長さがほぼ同等であるのに対し、本変種では側弁よりも下弁が短く、ヤクシマスマミレにやや近い。溪流の岩上に生育。</p>
		②分布域	沖縄県に分布する。
		③存続を脅かす要因	産地局限、開発等に伴う生育地の減少、園芸採取。
		④その他	<p>生育地の一部は以下に含まれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国立公園</li> <li>・市町村条例指定希少野生動植物</li> <li>・日本植物園協会加盟園2園で保有</li> </ul>



種名 (学名)	選定要件*	種の概要	
<p>62. タデスマレ (<i>Viola thibaudieri</i>)</p> <p>分類：スマレ科</p> <p>環境省RLランク： 絶滅危惧IB類 (EN)</p> <p>固有種</p>	ウ、エ	①種の特徴	<p>多年草。高さ20～40cm。有茎種。地下茎は短い。全体無毛、または茎と葉に少し毛がある。茎は数本が叢生する。根出葉は花期には生存しない。下部の茎葉は鱗片状に退化。上部の茎葉の葉身は上面は鮮緑色、下面は淡緑色、広倒披針形～狭卵形、長さ4～10(～12)cm、先端は鋭頭～鋭尖頭、基部はくさび形、低平な鋸歯があり、両面ともにほとんど無毛、葉柄は長さ1.5cm以下。托葉は披針形、長さ1.5～2cm、羽状に中裂する。花期は5～6月。花柄は腋生し、長さ5～6cm。花は白色、径約1.5cm、芳香がある。萼片は狭披針形、先端は鋭尖頭。花弁は花弁は幅狭く、長さ12～13mm、側弁の基部は有毛、あるいはまれに無毛。花柱は筒形、花柱上部は先端に向かってしだいに太くなり、柱頭は前方に突き出し、突起毛はない。距は長さ4～6mm、背面に縫合線のような条がある。</p> <p>山地の林床や林縁に生育。</p>
		②分布域	長野県に分布する。
		③存続を脅かす要因	園芸採取、開発等に伴う生育地の減少、シカによる食害、踏みつけ、遷移進行。
		④その他	<p>生育地の一部は以下に含まれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国定公園</li> <li>・ 長野県希少野生動植物保護条例指定希少野生動植物</li> <li>・ 長野県条例により保護回復事業計画を策定</li> <li>・ 日本植物園協会加盟園 1 園で保有</li> </ul>
<p>63. オキナワスマレ (<i>Viola utchinensis</i>)</p> <p>分類：スマレ科</p> <p>環境省RLランク： 絶滅危惧IB類 (EN)</p> <p>固有種</p>	エ	①種の特徴	<p>常緑多年草。有茎種で、地下茎は分枝伸長し、肥厚して木質化する。地下茎から地上匍枝（ストロン）を出して繁殖する。葉は卵形、鈍頭、基部は深い心形、厚く光沢があり、両面無毛。花後に葉はあまり大きくなる。托葉は細く、毛のような細い裂片に粗く羽裂する。よく似たシマジリスミレに比べ、葉面は平滑で基部の側片は重ならないことが多い。花期は2月中旬～3月下旬。花色は淡青紫色が多いが、白色に近い個体もある。花弁は細くて無毛、距は短い。柱頭は3角形で、無毛。蒴果は球形。</p> <p>隆起サンゴ礁の石灰岩の割れ目や窪みに生育。</p>
		②分布域	沖縄県に分布する。
		③存続を脅かす要因	産地局限、園芸採取。
		④その他	<p>生育地の一部は以下に含まれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国定公園</li> <li>・ 都道府県指定天然記念物</li> <li>・ 日本植物園協会加盟園 3 園で保有</li> </ul>

※選定要件について

○希少野生動植物種保存基本方針(平成30年4月17日環境省告示第38号)(抄)

第二 希少野生動植物種の選定に関する基本的な事項

1 国内希少野生動植物種

(1)国内希少野生動植物種については、その本邦における生息・生育状況が、人為の影響により存続に支障を来す事情が生じていると判断される種(亜種又は変種がある種にあつては、その亜種又は変種とする。以下同じ。)で、以下のいずれかに該当するものを選定(絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(平成四年法律第七十五号。以下、第八を除き「法」という。)に基づく指定ではなく、同法に基づき指定すべき種を選定を指す。以下同じ。)する。

ア その存続に支障を来す程度に個体数が著しく少ないか、又は著しく減少しつつあり、その存続に支障を来す事情がある種

イ 全国の分布域の相当部分で生息地等が消滅しつつあることにより、その存続に支障を来す事情がある種

ウ 分布域が限定されており、かつ、生息地等の生息・生育環境の悪化により、その存続に支障を来す事情がある種

エ 分布域が限定されており、かつ、生息地等における過度の捕獲又は採取により、その存続に支障を来す事情がある種